

公の施設の指定管理者における業務状況評価書

令和3年12月10日

施設名	文学館	所管課	文化生活スポーツ部文化振興課
-----	-----	-----	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県文化財団	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日									
施設所在地	高知市丸ノ内1-1-20											
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者の遺品等(以下「文学資料等」という。)を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。 ・文学資料等の調査研究 ・文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の教育普及活動 ・企画展示室、ホール及び茶室の提供 ・上記のほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な業務 											
施設内容	<p>〈建物〉延べ床面積:2,748㎡ RC造地上2階建 〈土地〉4,266㎡ 〈主要施設〉常設展示室、企画展示室、寺田寅彦記念室、ホール、茶室など 〈開館時間〉午前9時～午後5時 〈休館日〉12月27日～1月1日 〈主な料金〉常設展 一般370円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料</p> <table style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">施設利用料</td> <td style="padding-right: 10px;">企画展示室</td> <td>23,720円(1日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ホール</td> <td>12,780円(全室/1日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>茶室</td> <td>3,660円(全室/1日)</td> </tr> </table>			施設利用料	企画展示室	23,720円(1日)		ホール	12,780円(全室/1日)		茶室	3,660円(全室/1日)
施設利用料	企画展示室	23,720円(1日)										
	ホール	12,780円(全室/1日)										
	茶室	3,660円(全室/1日)										
職員体制	常勤職員: 6人 契約職員: 12人 合計: 18人											

※職員数は令和2年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)
収入	県支出金	130,773	124,003	133,386
	事業収入	6,321	2,303	5,865
	その他	1,700	4,900	
	収入計(a)	138,794	131,206	139,251
支出	事業費	138,794	131,206	139,251
	(うち人件費)	(72,934)	(72,232)	(74,417)
	その他	0	0	
	支出計(b)	138,794	131,206	139,251
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

		令和元年度(実績)	令和2年度(実績)	前年度比
① 年間利用者数 合計 (単位:人)	常設展	1,427 人	574 人	- 853人
	企画展	22,150 人	8,910 人	- 13,240人
	計	23,577 人	9,484 人	- 14,093人
	ホール	5,438 人	768 人	- 4,670人
	茶室	2,350 人	422 人	- 1,928人
	合計	31,365 人	10,674 人	- 20,691人
<p>〈利用実績〉 ・コロナウイルス感染症の影響や感染拡大防止のための休館や、吊り天井改修工事による休館などもあり、観覧者目標を下回った(目標人数:12,100人(中止企画展を除く)、達成率:約78.4%(ホール、茶室分を除く))。</p>				

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロビーにアンケート箱を常時設置し、利用者アンケートを実施している。 (回収188件、回収率2.1%) ・利用者アンケートは、展覧会の会期ごとの実態(性別、年齢、来館数、観覧者の住所、交通手段、来館のきっかけ、展示内容等各種評価等)を集計している。 <p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートの意見等を含めサービス向上のための改善に取り組んでいる。 (例) ・一部の企画展で特別に掲示した案内板について、他の企画展でも掲示して欲しいという要望に応えた。 ・常設展示について、企画コーナー及び顕彰作家の入替えを実施している。 <p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

本県ゆかりの文学作家を顕彰し、高知の文学の魅力を伝えるとともに、県民の文学への関心を高める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき、県関係の作家の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 作家や関係者との信頼関係を築き、特色のある資料の充実に努める
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

・県立の施設という信用と、日頃からの関係者との親交を通じて、寄贈資料は増加しており、令和2年度末時点で 78,225 点(前年度末から比べ 1,865 点の増加)

<R2年度の主な寄贈・寄託資料>

宮尾登美子遺愛の着物等 19 点、鹿持雅澄の短冊、寺田寅彦の絵画 等

1) 体制の確保

・資料班の契約職員2名が取り組んでおり、着実に資料整理、保存を進めている。

2) 展示保存の技術・意識の向上

・26 年度より博物館クラウド(I.B.MUSEUM SaaS)を導入し、資料の管理をデジタル化。館全体で情報を共有する体制を整備し、資料の有効活用を進めている。

・資料の適正な保管及び展示のため、収蔵庫や展示室内の温湿度データを収集・分析し、館内で情報共有するなど、各部署が連携しながら適切な環境の維持に努めている。

・26 年度から取り組んでいる、有害虫駆除の予防策(IPM)の活動を継続し、職員全員が交代で毎日開館前に点検を行うことで、展示環境保全に関する意識を高めるとともに実質的な成果も出ている。

3) 資料の整理・管理

・新規資料や未登録資料の登録及び旧システムにおいて不備があった情報の補完等の更新作業を実施。一部資料について、ホームページを通じてデータベースを公開した。

新規登録 1, 865 点 更新資料 8, 340 点

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・作家や関係者と良好な関係を維持し、貴重な資料の寄贈・寄託につなげており、平時の地道な積み重ねが成果として表れている。 ・良好な保存・展示環境を作ることでリスクを軽減するという活動に取り組んでおり、常に保存・展示環境に気を配る習慣を身につける努力が認められる。

評価項目

職員の専門性の向上を図るとともに、高知の文学や作家に関する調査研究を進め、その成果を、展示や広報媒体などを通じて、広く公開する

状況説明

- 1) 所蔵資料の調査研究
 - ・所蔵資料を体系的に分類・整理し、常設展示室での顕彰作家のローテーション展示紹介の基礎研究資料としている。
- 2) 県内外の文学館施設の交流
 - ・全国文学館協議会、瀬戸内文学館連絡協議会、こうちミュージアムネットワーク等へ参加し、県内外の文学館施設との交流を通じて、情報交換や専門性の向上に寄与する活動を行っている。
- 3) 常設展における公開
 - ・中山高陽、黒岩涙香、田岡嶺雲を紹介し、高知の文学者と作品の魅力をわかりやすく伝えた。
- 4) 企画展
 - ・高知県ゆかりの作家を顕彰し紹介する企画展を1本行った。
- 5) 文学研究誌等への寄稿や講演
 - ・同人俳誌「勾玉」に「高知の俳人・若尾瀾水」や、物理系の科学者が中心となって書いた随筆や評論などを集めた雑誌「窮理」に「窮理の種」を連載。
 - ・市民生涯大学・シルバー大学・教育関係者研修会・高知大学等で講義を行った。
- 6) 広報媒体での公開
 - ・最新情報はホームページやSNS等で随時発信し、顕彰作家については目次追加による検索の利便性の向上を図るとともに、情報項目の内容の充実等を図った。
 - ・季刊報「藤並の森」を発行し、当館のホットな情報を県内外の関係機関等に提供した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・所蔵資料の調査研究に継続して取り組み、成果報告として、顕彰作家のローテーション展示を行っている。 ・県内外の文学館施設と交流し、情報交換や専門性の向上に寄与する活動を継続して行っていることが認められる。 ・雑誌での連載や市民生涯大学、シルバー大学、高知大学等で講義を行うなど、より多くの県民へ文学の魅力を広めることができている。 ・館の最新情報について、随時発信していることが認められる。

要求水準－展示・公開

優れた文学作品に触れる機会を提供し、文学の愉しさを伝える

評価項目

- (1) 新鮮さと変化が感じられる常設展示や、時代の変化を踏まえ、様々な年代の知的好奇心に触れる企画展示を行い、5年間で11万人以上の観覧者を目指す
- (2) 次代を担う子どもたちに喜びと感動を与え、創造性豊かな心を育む企画展示を行う
- (3) ギャラリートークの実施など、来館者の理解が深まる取り組みを行う

状況説明

- 1) 常設展示室
 - ・ローテーション方式での展示の入替や、宮尾文学の世界では、『宮尾登美子の軌跡～直木賞作家として～』の展示を行った。
 - ・企画コーナーでは「スポーツと文学～作家がとらえた躍動の一瞬。物語る文学～」を開催した。
- 2) 企画展示室
 - ・「シンデレラ展 ～語り継がれる幸せの魔法～」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止。(3年度に実施)「ウルトラとくさつワールド 空想特撮大作戦 ～ウルトラマンと夢見る未来～」(7,923人)、「百花繚乱 ～高知の女性文学史～」展(987人)
- 3) 子どもの創造性豊かな心を育む取組
 - ・「ウルトラとくさつワールド 空想特撮大作戦 ～ウルトラマンと夢見る未来～」では、「レッドキングにスペシウム光線を撃とう！」コーナーや「ウルトラセブン vs 宇宙ロボットキングジョー」などのフォトスポット、スタンプラリーなどの関連イベントも実施し、子どもだけでなく大人も楽しめ、文学館ならではの「書く」「想像(創造)する」喜びがあふれる展覧会となった。
 - ・「おはなしキャラバン」による読み聴かせ活動の実施。(実績:館外20回 館内6回、1,964名)
- 4) 来館者の理解を深める取組
 - ・企画展開催中は、毎週土曜日に担当学芸員によるギャラリートークを実施。(23回 250名参加)
 - ・年間を通じて、団体等の来館にあわせて担当者による展示解説を実施。
 - ・「百花繚乱 ～高知の女性文学史～」では、藤原緋沙子氏の講演会を行った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の文学作家の顕彰を中心に、様々な年齢層を対象にした質の高い展覧会を実施しており、常設展・企画展の合計観覧者数は9,484人と、年間目標値である12,100人(中止企画展を除く)を達成することが出来なかったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が要因と考えられる。 ・子どもに関心の高い企画展等を実施することで、子どもたちが文学に興味を持ち、文学館に訪れるきっかけを作ることができている。 ・ギャラリートークや解説、関連企画等を積極的に実施し、見るだけでは伝わらない担当者の思いや作品の背景を伝えることにより、来館者の理解が深まる取組を行っている。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

- (1) 多彩な年代に応じた教育プログラムの実施により、来館者の文学への関心を高める
- (2) 文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援し、文学活動の裾野を広げる

状況説明

- ・文学マイスター講座(年5回、中止3回)では、「高知とスポーツ」をテーマに、オリンピック取材した作家たちやスポーツ関連の文学作品についての講義を行い、全講座を受講した2名を文学マイスターに認定。
- ・児童生徒文学作品朗読コンクールは、新型コロナウイルス感染対策のため中止。
- ・市民講座・生涯大学等への講師依頼を受けて館の職員が出前講座を実施。
- ・児童クラブや福祉施設などからの要請を受けての出張おはなしキャラバンや出張朗読を実施。
- ・企画展開催中の土曜日には展示解説を行うとともに、年間を通じて定期的に教育普及事業を実施。(第1:おはなしキャラバン、第2:語りと紙芝居の会定例会、第3:朗読の会、第4:文学マイスター講座)
- ・博物館実習、小中高や専門学校、大学等の授業と関連した団体鑑賞を例年受け入れている。
- ・「朗読の会」はお客様の前で発表の場を定期的に設けて実践経験も積み、会員のスキルを深めている。2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出張朗読で録音を活用するという初めての試みを行うなど、将来も見越した会の計画的な発展を考えて取り組んでいる。
- ・語りや紙芝居の演じ方を学ぶ定例会を毎月行い、会員による発表の場も設けている。
- ・古文書読解の上級者を会員として、当館所蔵の近世文学資料により「近世土佐文学研究会」を当館で週一回行い、サークルを支援するとともに、当館所蔵の近世文学資料の調査研究にも役立てている。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・文学マイスター講座の開催をはじめ、職員の講師派遣やおはなしキャラバン等のアウトリーチ活動を積極的に展開するなど、多彩な教育プログラムが実施されている。・朗読の会は発表の場を定期的に設け会員スキルの向上に努めており、2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため出張朗読で録音活用を初めて試みるなど、会の発展のため取り組んでいる。・文学研究会への館所蔵資料の提供などにより、文学活動に取り組む団体への活動支援が行われたと認められる。

評価項目

高知の文学に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

1) 広報媒体の活用

- ・新聞・テレビ・ラジオや各種情報誌などへ積極的な情報提供を行い、タイムリーな情報発信を行った。
- ・ポスター・チラシの配布にあたっては、高知市内、県内の道の駅などにも出向いて依頼し、広報密度を高めている。
- ・雑誌「窮理」掲載、「勾玉」(県内同人誌)への連載など、研究者や一般の読者にも高知の文学を紙面を通して広めた。
- ・最新情報を随時ホームページで発信しており、作家紹介をリニューアルし内容の充実を図った。
- ・ツイッターやフェイスブックなどのSNSも活用し、延期中止となったシンデレラ展について、SNSを通じ「おうちでシンデレラ展」と題して情報発信を行い次年度につなげた。

2) 講演会への職員派遣

- ・市民学校文学講座・シルバー大学・高等学校や大学等において講師を努め、高知県の文学全般や展覧会のことなどを広く伝えた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種広報媒体を利用して企画展等の情報を発信し、ホームページの活用なども含め、積極的に戦略的な広報活動が行われている。 ・令和2年度は、ホームページの作家紹介についてリニューアルを行うことで、検索の利便性の向上と、内容の充実を図っている。 ・講演会などを通じて、高知の文学について、広く伝える取組が行われていると認められる。

評価項目

県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状況説明

1) 文学館・博物館との連携

- ・各企画展において、関係する文化施設等との展示構成における資料の貸し借りや情報交換を行い、高知県所有資料だけでなく、他文化施設の所有資料も展示することができる。
- ・「全国文学館協議会」や「瀬戸内文学館連絡協議会」へ加入し、情報交換や意見交換により、日頃から関係を深め、展覧会等での協力体制の円滑化や強化に努めた。
- ・全国文学館協議会共同企画に参加し、「3.11 文学館からのメッセージ 寺田寅彦と地震8 高知の作家が向き合った地震2」を行った。
- ・こうちミュージアムネットワークや高知お城下文化施設の会に加入し、県内の文化施設との連携や情報共有に努めた。

2) その他の連携

- ・子ども企画などを扱っている民間会社などとの情報交換を密にし、時代のニーズや各社の企画などの情報の入手に努めている。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の文学館組織や文化施設等との連携を図り、より魅力ある企画展の開催や巡回展の誘致につなげている。 ・「高知お城下文化施設の会」での活動を行うなど、分野を超えた連携を積極的に行っている。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

1)社会的責任
 ・公益財団法人高知県文化財団の各種規程により、法令を遵守した管理運営を行っている。

2)建物や設備の管理
 <主な修繕等の実績>
 ・自家発電設備鉛蓄電池等交換
 ・空調室外機棟漏電調査・修繕及び屋上防水
 ・空調加湿器交換(2台)
 ・空調加湿器給水配管交換
 ・外灯水銀灯(5基)LEDへ改修
 ・収蔵庫LED交換
 ・収蔵庫燻蒸
 ・中央監視装置消耗部品交換修繕
 ・正面入り口掲示板修繕正面入り口掲示板修繕
 ・こどものぶながく室積み木ツリー及び天井部分製作
 ・周辺通路点字ブロック補修
 ・館内無線LAN整備
 ・機械警備回線及び設置機器更新
 ・茶室、中庭、藤並の森樹木剪定
 ・施設の保守管理・点検は、空調・電気・清掃・機械設備等を中心に、入札等で選定した業者に委託して行っている。

3)危機管理
 ・風水害、地震、火災等の危機管理については、防火管理者を選定し地震等防災計画に沿って管理している。
 ・安否確認や緊急時の行動などを記載した緊急対応ポケットカードを作成し、全職員に配布した。
 ・文化財団業務継続計画に基づいて、文学館の非常時対応マニュアルを作成し、職員に周知した。

評価	理由
B	・建物・設備の管理については、事前に修理を行い、観覧者の安全性や快適性を保つ等、適切な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目	
(2) 利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明
<p>1) 利用者の意見の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査や直接職員が受けた意見等を全職員で共有し、様々な年齢層の方に満足していただける企画開催をはじめ、サービス向上のための基礎資料として活用し、良好な施設づくりに取り組んだ。 <p>2) 自己点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の定例会において、職員が事業運営や職員活動に対する様々な意見を出し合い、サービス向上のための改善に取り組んだ。 <p>3) 職員の専門性の向上と研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国文学館協議会や瀬戸内文学館連絡協議会での専門研修やこうちミュージアムネットワークの動画制作研修など各種研修会に積極的に参加し、それぞれの専門分野の知識向上スキルアップに努めた。 ・県外の展覧会や民間の展示方法等の研究により発想力を研鑽し企画展や催事を行い、顧客サービスの改善に努めた。 <p>4) その他サービス向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内無線LANを整備したことにより、ほぼ全館で来館者の Wi-Fi 利用が可能となった。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートの実施により、利用者サービスの維持向上に努めている。 ・館内無線 LAN の整備を行い、ほぼ全館で来館者の Wi-Fi 利用が可能となるなど、サービス向上に努めた。 ・職員の専門性の向上により、展示環境改善へ繋がっている。

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
<p>1)利用実績の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館日数 214日 うち企画展開催日数 130日(R元実績 339日 うち企画展開催日数 273日) ・総利用者数 21,594人(R元実績 49,473人 対前年度比 44%) <ul style="list-style-type: none"> うち常設展観覧者数 574人(R元実績 1,427人 対前年度比 40%) うち企画展観覧者数 8,910人(R元実績 22,150人 対前年度比 40%) うち教育普及事業参加者数 10,920人(R元実績 18,108人 対前年度比 60%) うちホール・茶室利用者数 1,190人(R元実績 7,788人 対前年度比 15%) <p>2)開催状況 (企画展)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル展3本を予定していたが、1本は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり2本を開催した。 ・「ウルトラとくさつワールド空想特撮大作戦 ウルトラマンと夢見る未来～」 【空想特撮シリーズ】と銘打たれた円谷プロダクションの『ウルトラQ』『ウルトラマン』『ウルトラセブン』の3作品をベースにした、子どもやご家族連れで楽しめる展覧会を開催した。 ・「百花繚乱 ～高知の女性文学史～」展 近代以降に活躍した多彩な高知ゆかりの女性作家たち(14名)をテーマに近代という時代を検証した。 <p>(常設展、企画コーナー、特別室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示室では、収蔵資料を中心にローテーション方式で入れ替えを行い、企画コーナーでは、「スポーツと文学～作家がとらえた躍動の一瞬。物語る文学～」として、前期はオリンピックに焦点をあて、取材記事やエッセイなどを、後期は物語の場面に描かれたスポーツ(武芸)について紹介した。 ・「寺田寅彦記念室」のミニ企画コーナーでは、全国文学館協議会共同企画「3.11 文学館からのメッセージ」に参加し、「寺田寅彦と地震8 高知の作家が向き合った地震2」を開催した。 ・「宮尾文学の世界室」では、「宮尾登美子の軌跡～直木賞作家として～」と題し、直木賞受賞までの道のりと受賞作『一絃の琴』について詳しく紹介した。

評価	理由
B	・新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により観覧者数などは減少したが、教育普及事業参加者数は 10,920 人で、目標参加者数の 4,850 人を上回っている。

評価項目		
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<p>1)収入増加の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「優良な企画展の開催といつ来ても新鮮な常設展」を合い言葉に、展示物等を職員により自作をするなど、観覧者の来館推進を図った。 ・ミュージアムショップにおいて企画展と連動したグッズの販売促進を行った。 <p>2)経費削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経費の中で一番大きなウェイトを占める電気料の削減について、不用な部分のこまめな消灯、空調機器の一斉稼働の防止(デマンド上昇の回避)、計画的なLED化等により、消費電力の削減を図った。 ・消耗品の在庫見直しによる無駄な購入の防止、コピー機・印刷機の有効活用による使用料削減等を行った。 ・展示物のキャプションやデザインを自作することにより委託料や印刷費の削減を行った。

評価	理由
B	・ミュージアムショップの商品販売や、展示物等の職員の自作など、工夫を凝らした取組の努力が認められる。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示の計画的充実や、魅力ある企画展の開催、データ分析に基づいた戦略的情報発信など、日ごろからの地道な取組が評価できる。 ・子ども向けの企画展では体験展示を実施するなど、より文学を身近に感じてもらえるよう新たな試みに挑戦していることが認められる。 ・職員が事業運営や職員活動に対する様々な意見を出し合い、サービス向上のための改善に取り組んでおり、優れた管理運営、事業の遂行がされたと認められる。 <p>以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。